

## 学校経営推進費評価報告書（2年め）

### 1. 事業計画の概要

学校名	大阪信愛女学院高等学校
取り組む課題	グローバル人材の育成
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ベネッセコーポレーション「スタディーサポート」における学力の到達度ならびに学習習慣の到達度</li> <li>• ベネッセコーポレーション「GTEC for students」におけるスコアの上昇</li> </ul>
計画名	次世代女性リーダーの育成

### 2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>① “誇り高い強い女性”を育成するために学力・精神力を強化する。 学力・精神力の強化とは、内部競争力を高め、進学意識を強め、達成感を持たせるように指導することと考える。</p> <p>② 「英語」をテーマにした具体的な取組みの実現 音声中心英語教育の実践による英語コミュニケーション力のアップと、受験英語への対応をおこなった。継続して実施する。</p> <p>③ キャリア支援の充実 年間を通じて、併設短期大学はもとより、教育連携を結ぶ大学を中心に、生徒の大学教育に対する理解・関心を深めるための種々の取組みを実施する。高校1年生を対象として、外部講師による講演会、大学見学バスツアー、大学体験などを実施。 高校2年生を対象として、専門研究機関の協力による実験、病院や幼稚園での実習体験、農家での農業体験(春・秋)、大阪教育大学教授陣による授業シリーズ、20数校の大学・専門学校の先生方による授業体験、学問分野別説明会などを実施。高校3年生を対象として、進路説明会や「面接の為のマナー講座」などを実施した。内容を検証し、充実する方向で継続実施する。</p>
事業目標	<p>本校は、生徒一人ひとりがカトリックの精神に基づく人生観をもち、それぞれの可能性を最大限に伸ばして自己形成を図るとともに、人間としての豊かな心と主体性をもって、進んで国際社会に貢献する明朗で健康な女性に成長することをめざす。</p> <p>本校の教育の指標である、「5つの心」（祈る心・学ぶ心・奉仕する心・和する心・賛美(感謝)する心)の定着度合いを検証するため、2種類の評価指標を使用する。まず、「スタディーサポート」は、現在の学力の状態と生活習慣の両方をチェックするテストであり、生徒が希望する進路をかなえるために、今、取り組むべきことが明らかになる。次に、「GTEC for students」は、技能別の英語運用力を絶対評価で示されるため、生徒は日々の学習に手ごたえを感じ、教員は個々の技能別の英語レベルを確認することができる。これらのデータを ICT サービス「Classi」で管理し、教員が生徒一人ひとりの状況に応じた的確な指導を行うことで、次世代で活躍する女性リーダーの育成を促進する。</p> <p>具体的には、次の目標を掲げる。</p> <p>① 「スタディーサポート」における学力の到達度ならびに学習習慣の到達度(以下、GTZ)のB2以上を年度ごとに約5ポイント上昇させ、2年後に生徒全体の25%、3年後に30%を達成する。</p> <p>② 「GTEC for students」のスコア平均を年度ごとに40上昇させる。</p>

<p><b>整備した 設備・物品</b></p>	<p>ASUS Chromebook (特別教室・教員)、Chrome / Chromebook Management Service for Education、Google Chrome cast Ultra (特別教室)、Apple TV 64GB (特別教室)、HDMI ハイスピードケーブル 3m (特別教室)、Buffalo 無線 LAN ルータ (特別教室)、EPSON 書画カメラ ELPDC21 (特別教室)、プリントサーバ用 Windows マシン (職員室)、プリントサーバ用 24 インチ液晶モニタ (職員室)、ノート PC 充電保管庫 (特別教室)、EPSON プロジェクター (特別教室)、EPSON ワイド 82 型プロジェクター一体型ボードスタンド (特別教室)、ELECOM HDMI 変換アダプタ (普通教室)、教室天井吊りプロジェクター用 HDMI ケーブル壁面端子増設工事 (普通教室)</p>
<p><b>取組みの 主担・実施者</b></p>	<p>取組みの主担： 進路指導部 取組みの実施者： 進路指導部、各教科担当者</p>
<p><b>本年度の 取組内容</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 英語の取組内容：コミュニケーション英語では、読解力と語彙力の強化として、Chromebook の classroom において宿題や小テストを配信。解説も教員が前もって入力しておく。Chromebook で小テストを行うことによって、生徒自身、結果と解説もその場で確認させ学習の定着を図る。</li> <li>◆ プラクティカル・イングリッシュ：昨年度同様、Chromebook を利用して、英語のプラクティカル・イングリッシュ (本校独自のアウトプットを中心とした授業) の中で、英語学習に適する多様なアプリケーションを用い、生徒の 4 技能のバランスの良い活動を促す。Chromebook 上で生徒が提示したエッセイを読み、それに関連したテーマについてグループで話し合い、意見をまとめ Chromebook 上で英文のエッセイを校正する。それを教員に配信し、プロジェクターで全員の前で写しながら英語でプレゼンテーションをする。同時に英文の文法間違いを訂正する。今年は、それに加えて Chromebook 上で Speaking / Listening の宿題を配信。</li> <li>◆ 総合的な学習の時間：本校の総合的な学習の時間は、高 1 で「読む」、高 2 で「書く」、高 3 で「発信する」という形で行う。高 1 では、図書館にある文献を用いて、グループ単位で調べ、ポスターでまとめ、ポスターセッションによって発表する。高 1 で培った、文献を調べてまとめる力を、高 2 では、個人単位に置き換えて、書く力を養う。その方法は、個人ごとに Chromebook を使用し、世界中の文献を調べ、論文の材料を収集し、論文を作成していく。この論文のチェックやアドバイスも、Chromebook を用いて行う。論文の中間発表も、Chromebook を利用する。</li> </ul>
<p><b>成果の検証方法 と評価指標</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ プラクティカル・イングリッシュ <ul style="list-style-type: none"> <li>① Chromebook を使って英語学習に適したアプリを使用し、さらに多様な課題に取り組みせ、観点別に評価する。</li> <li>② 課題を与え、回答状況をチェックすることによって、自宅でパソコンやタブレット・スマホなどのデバイスも使いこなせているか確認。</li> <li>③ エッセイ課題を通して、担当教員やクラスメートからの即時のフィードバックを行う。</li> </ul> </li> <li>◆ 英語においては「スタディーサポート」と「GTEC for students」の結果を評価指標に使用する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>「スタディーサポート」は、現在の学力の状態と生活習慣の両方をチェックするテストであり、生徒が希望する進路をかなえるために、今、取り組むべきことが明らかになる。</li> <li>「GTEC for students」は、技能別の英語運用力を絶対評価で示されるため、生徒は日々の学習に手ごたえを感じ、教員は個々の技能別の英語レベルを確認することができる。</li> </ul> </li> <li>◆ 総合的な学習の時間 <ul style="list-style-type: none"> <li>担当教諭が、生徒に Chromebook を教材とし、以下の項目を指導・教授する。</li> <li>① 文献は、本校の図書館からだけでなく、Web を利用して世界中から論文の資料を集めさせる。</li> <li>② 上記①で収集した資料をまとめさせ、クラス内で中間発表をさせる。</li> <li>③ 上記②でまとめた資料を使い、中間発表でのアドバイスを参考にし、ドキュメントに論文を書かせる。</li> <li>④ 生徒への指導手段の 1 つに、Chromebook の classroom を利用する。</li> </ul> </li> </ul>

<p style="text-align: center;">自己評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ プラクティカル・イングリッシュ <ul style="list-style-type: none"> <li>• エッセイをしっかりと書かせ、同時に文法のチェックを行ったこともあり、英作文で力をつけさせることができた…………… (◎)</li> <li>• 生徒自身がプレゼンテーションの数をこなすことによってスキルの上昇が見られた…………… (◎)</li> <li>• 普段はできない客観的な発音のチェックを導入したことによって発音の改善が見られた…………… (◎)</li> </ul> </li> <li>◆ 英語 <p style="margin-left: 20px;">「スタディーサポート」では、2018年度高校1年生はChromebook導入1年め、昨年4月の第1回と8月の第2回を検証。2018年度高校2年生は、Chromebookを1年生の秋以降に導入。一昨年の第2回8月と昨年の第2回8月を検証。両方とも英語で主にChromebookを使用したため英語のみを検証に使用。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 2018年度高校1年生は1年で14ポイント上昇…………… (◎)</li> <li>• 高校2年生は7ポイント減少…………… (△)</li> <li>• 成果の表れ方にばらつきがあったのは、1年生はChromebookの使用頻度は高かったが、2年生は担当者によって使用の頻度や使用クラスにばらつきがあったためと考えられる。しかし「GTEC for students」では、2018年度の高校3年生で検証すると、1年間でトータルスコア57ポイント上昇した。…………… (◎)</li> </ul> </li> <li>◆ 総合的な学習の時間 <ul style="list-style-type: none"> <li>①② Chromebookによって、生徒の論文などの管理がしやすい。しかし、キーボードがアップルに近いため、生徒への指導が大変である。教員自身も多少戸惑うこともあった。しかし、最終的には、手際よく使用していた。…………… (◎)</li> <li>Webを利用しつつ、論文を仕上げていた。コピー&amp;ペーストをしてよいものと、そうでないものの区別の指導が必要不可欠であった。…………… (◎)</li> <li>③④ 黙々と論文を書いたり、クラスルームで発表したり、ペーパーレスの授業ができたことは、生徒への負担も軽減できたので良かった。…………… (◎)</li> </ul> </li> </ul>
<p style="text-align: center;">次年度に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ プラクティカル・イングリッシュ/英語 <p style="margin-left: 20px;">Chromebookの導入により、生徒に、より課題が配信しやすくなった。またプレゼンテーションやエッセイなどのグループ活動が増えた。生徒がICT機器に慣れることによって、抵抗なくスムーズに使用できるようになった。以上のことから、本校で次年度からiPadを導入するきっかけにもなり、よりICT教育が推進されたので、さらに効率よくICTを活用し生徒の学力を伸ばしていきたい。</p> </li> <li>◆ 総合的な学習の時間 <p style="margin-left: 20px;">Chromebookの、クラスルームが使いやすく改良されたおかげで、使いやすくなった。提出物の管理や教員から指導コメントが書き込みやすくなっているので、どんどん利用したい。</p> </li> </ul>